

ソーシャルメディアによる持続的なコミュニティ形成について Sustaining a Community with Social Media

伊藤 昌毅^{1*}
ITO, Masaki^{1*}

¹ 鳥取大学
¹Tottori University

はじめに

ソーシャルメディアの普及は、国境や組織、年齢や役職を越えて人々を結び付け、新しい形のコミュニティを出現させている。筆者が昨年度報告した「地理情報システム (GIS) 技術を中心とする技術情報交換コミュニティ」もその例である。ここでは、企業や学術機関、公的機関など様々な組織に属する個人が、GIS 技術への関心という一点で繋がり、Twitter を中心に議論や情報共有を続けている。このような緩やかな組織は、どのような条件で継続、発展するのだろうか。その継続のために、どのような努力が必要だろうか。本稿では、筆者の周辺の活動を中心にその最新の実態を報告する。

コミュニティ継続の条件

筆者の周辺で前述のコミュニティが成立し始めたのは 2009 年末頃からであり、現在まで、そのコミュニティは継続している。以下に、その継続に寄与する要件を議論する。

過度の目的指向とならない交流

ソーシャルメディアは、人々のちょっとした関心を刺激する情報の交換を中心に成り立つメディアである。ニュースへの感想や主張などが交わされる一方で、集中して会話を続けるような種類の交流は、そこには馴染まず、短い時間で交換できいつでも中断できる断片的な情報や挨拶のやりとりが好まれる。このため、ソーシャルメディアは集中を要するプロジェクトを推進する場というより、出会いや情報発信、交換の場であるほうが馴染みやすく、明確な目的を持った交流は、別のコミュニケーションツールへ誘導するのが望ましい。

現実世界と連続する人間関係

本名や所属を明かさず、匿名という立場でコミュニティに加わる人もいるが、それでも多くの人々が現実世界でのイベントなどで顔を合わせている。職務上の付き合いの場合もあるが、勉強会や、FOSS4G というオープンソースのイベントなど、組織を越えた集まりの場での繋がりも多い。オンラインのみの付き合いでも十分に信頼関係は生まれるが、オフラインでの付き合いに抵抗を持たず、機会があれば顔を出すような人によって、コミュニティの中核を支える信頼関係が生まれている。

Togetter によるコーディネーターの存在

Twitter のつぶやきをまとめる Web サービスである Togetter は、単に記録という使い方だけでなく、Twitter でのつぶやきを有益なものとするための重要な機能を担っている。ひとつは、アジェンダ設定機能である。つぶやきの流れを切り出し、タイトルを付けてまとめることで、誰にでも分かる形で話題が示され、更なる議論の深化を誘発する。筆者がまとめを行う際に一番頭を悩ませるのは、タイトル決定であり、つぶやきの取捨選択といった機械的な作業よりも時間を掛けることもある。

もう一つの機能は、議論のスピードや量のコントロールである。自然発生的にテーマが生まれ話題が拡がりそうになった際、どのタイミングでつぶやきをまとめるかはその後の議論の質や量に大きな影響を与える。話題が盛り上がる瞬間に合わせてまとめると、前掲のアジェンダ設定機能が働き議論を加速する。また、ある程度収束したあとにまとめると、熟慮を経た意見が更なるコメントとしてつぶやかれることになる。

以上に挙げた機能を意識しながら Togetter を利用することで、ハッシュタグを用いずとも Twitter の何気ないつぶやきの連鎖に文脈を与え、生産的な議論や情報交換の場を生み出すことが可能である。

コミュニティや活動の派生

ソーシャルメディア利用者は、徐々に用途に応じ Facebook や Google+, LinkedIn などいくつかのソーシャルメディア

MTT38-01

会場:301A

時間:5月21日 15:30-15:45

を使い分けるようになってきた。従来 Twitter を利用していたユーザの一部は、その利用の中心を Facebook に移している。例えば、企業関係者などがビジネスに結びつく情報交換などである。また、東日本大震災を契機に草の根的に始まった、ソーシャルメディア上を流れる災害関連情報の集約サービスである sinsai.info の活動の内部では、より密な交流が可能なチャットサービスが使われている。議題に対し結論を得る必要があるようなコミュニティでは、メーリングリストが使われている。こうしたコミュニティでは、ソーシャルメディアは入り口として位置付けられている。

おわりに

Twitter のような、開放的でネットワーク形成力を備えたソーシャルメディアは、研究活動を継続する上でもその可能性を大きく広げる情報プラットフォームになるというのが筆者の確信である。何気ないつぶやきが様々なバックグラウンドを持つ人の反応の連鎖を生み、思いもよらない着想にたどり着くなど、使い方次第でこれまでになかった創造の場になり得る。また、Web や論文とは異なる、不完全でも継続的な情報発信を行うことで、興味を持つ人が読者になるとともに関連する情報を寄せる、効果的な情報収集の場にもなる。ソーシャルメディアが進歩、変質する中で、このような良質な研究活動の場を如何に継続、発展させるかが今後の課題である。

キーワード: GIS, ソーシャルメディア, コミュニティ形成, Twitter

Keywords: GIS, Social Media, Organizing Community, Twitter